生涯学習課

古墳時代の集落跡を発見

西城町「常納原遺跡」発掘調査

市教育委員会が昨年10月から12月にかけて実施した西城町八鳥法京寺地区のほ場整備事業に伴う発掘調査で、古墳時代（3～6世紀）に営まれた大規模な集落跡「常納原遺跡」を発見しました。

遺跡からは「竪穴式住居」や倉庫として利用した「掘立柱建物」の痕跡が発見されたほか、多量の土器や鉄器、勾玉や管玉などが発見され、当時の生活や鉄を加工した様子が想定されます。

今回の調査は、西城町における初の本格的な集落遺跡の発掘調査で、地域の歴史を考察するうえで非常に貴重な資料であり、今回の成果を地域の歴史への関心に有効に結びつけたいと考えています。

住居跡の発掘調査風景

企画課

雪利用を探る「雪室」が完成

庄原雪資源活用プロジェクト

庄原雪資源活用プロジェクト協議会が1月上旬、高野町の下高公民館グラウンドに雪室（実証試験棟）を建設し、雪資源の有効活用策を探るプロジェクトが本格的にスタートしました。

この協議会は、庄原建設業協会をはじめ庄原商工会議所、県立広島大学庄原地域連携センター、市や市社会福祉協議会など異業種の11団体で構成。福祉環境整備と高付加価値型産業創出を目指し、高齢者世帯の屋根の落下雪を雪室に入れ、野菜や地酒などの食品を貯蔵することで旨みを出し、付加価値の高い商品を開発するなど、雪利用のさまざまな実験を行います。

「建設業と地域の元気回復助成事業」として国から２５００万円の助成を受けています。

幹事会で雪室に貯蔵する食品を協議

たて約6m×よこ約11m×高さ約5mの雪室（右）